

平成 25 年度 女性と市長との懇談会（2 回目）

平成 25 年 12 月 2 日(月)10:00～12:00

健康福祉会館 3 階 研修室

出席者 12 地区 女性 24 人

市長・企画部長・定住推進部長

市長あいさつ

12 月、最終月を迎えお忙しい中出席いただきありがとうございます。

合併 9 年目を終えようとして 10 年目が迫る。1 市 7 町村の広域合併は全国的にも規模の大きい合併。中津川市や恵那市のような広域合併は数少ない。市が抱える問題は広域合併したまちに共通して多いもの。ひとつの新しいまちとして、なかなか統一できない。それぞれの自治体の歴史、伝統、それぞれ力を入れてきた施策がある。新しい自治体として打ち出すことが不平等に感じられ、閉塞感がある。

今日の懇談テーマ、明日の中津川市づくりのヒントをとサブタイトルに入れた。

市政懇談会を開催しているが、参加人数が多く、それぞれの意見交換までは数に限りがある。女性の目から見た、これからのまちづくり、これまでの反省も含めてご意見をいただきたい。

リニアは 40 年以上まえに期成同盟会が東濃に駅をと要望活動を始めた。実現してみると、大変大きな影響のあるもの。地元の皆さんの生活への配慮、まっ先に解決しなければならないこと。リニア誘致の努力は、地域の高齢化、人口減少、地域活性化の一助に、対策にと取り組んできたもの。もろ手を挙げてリニアを受けるわけではない、環境、生活への配慮が必要。リニアが来ればいいわけではない。通過するだけになってしまう。それぞれの地域の魅力を集めて、1 つの新しいまちとして、まちづくりに取り組む必要がある。

懇談内容（要約）

・〇〇さん

今年初めてがんサポ補助で活動。付知は地味噌を作る人が多いが、味噌のために必要な麴づくりをしていた方が高齢となって作れなくなった。自分たちで麴をつくって、味噌を作りたいと 3～4 年前に 5, 6 人集まった。がんサポで資金をいただけたのをきっかけに、麴づくりに取り組める。地味噌を食べ慣れていると、買ったものは飽きがくる。防腐剤など添加物も入っている。自分たちでまずもろづくり、次に麴作り、味噌作りへと進めていきたい。今年のもろづくり。男性が一人加入して「じいばあず」になった。付知中で味噌が作れるように、継承できるようにしていきたい。

・〇〇さん

2 年ほど前に、子ども連れでお父さんお母さんの憩いの場となるよう、カフェを始めた。スタッフは幼稚園から中学生の母親 6 人、全員がカフェの経験はない。子ども向けの手作り講座など、短時間で楽しめる体験を提供。子育てサポーター養成講座を受講して託児もできるようになった。手作り雑貨の委託販売もしているので作る方にも喜んでもらえていると思う。幅広い世代の方に来店してほしい。市でも市内の方々にアピールしていきたい。

先月初めて「歯医者さんと話そう」というイベントをやった。「ねこのて」の場所を使って喜んでくれた。子育て支援で使える施設はまだまだ少ないので「ねこのて」も利用してほしい。自分も一度仕事を辞めてから「ねこのて」で働いている。出産してからも働ける中津川市であってほしい。

・市長

地域の伝統、文化の中に「食」がある。味噌について阿木や苗木でも取り組まれている。地域の味を守っていく良い活動、男性も加入しているとのこと。大いに巻き込んでいくことが大切。

地域の活性化についてアンケートで聞くと、合併したから元気なくなったという意見がでるが、合併前からコミュニティの希薄さはあったはず、合併がきっかけとなって拡散しているのでそう感じるかもしれない。さらに地域の魅力を磨いてもらいたい。

「ねこのて」はいつ行っても若いお父さんお母さん、小さいお子さん連れで混んでいる。場所があそこでは狭いのではと思うくらい。子育てが初めてのお父さん、お母さんも交流でき、アドバイスをもらえるいいところ。西太田町の核となっている。広報通じて市としてもアピールしていきたい。

・〇〇さん

加子母に嫁いできた子育て中のお母さんが公園も児童館もないので子どもを遊ばせる場所がない。自分たちで作ろうと10年くらい前に活動を始めた。今は市の子育て支援センターになっており、付知を含めて活動している。付知の方の利用が多くなった。活動を広げていけたらいい。この地区にも欲しいという要望も多く聞く。

・〇〇さん

苗木の学童は桜と水晶の二つ、桜は苗木中学校の裏の教員住宅を改装して使っている。併せて70人くらい。先日の入所希望説明会には15人くらい。古いコンテナをくっつけた建物、寒いし地震の時には危険。それでも子どもたちはサッカー、縄跳び、手芸と楽しく遊んでいる。遊ぶ場所が狭いので中学校のグラウンド、テニスコートを借用したいとお願いしているがなかなか良い返事がもらえない。

指導員も若い方に来て欲しいが、働く場所としてふさわしいかどうか。それでも若い方のほうが子どもたちにとってはいいはず。

・〇〇さん

フルタイムで働いているので放課後子どもだけで家にいるのは心配で、学童保育に預けている。学童で夏休みも手作りのご飯やおやつを出してもらえてありがたい。部屋は床もきしむし、寒いのが、先生たちの工夫で過ごしやすいうように、安全にと配慮していただいている。女性が働けるように市としても支援してほしい。

・市長

お父さん、お母さんが働いている家庭多い。合併して9年目、人口は2000人減ったが世帯数は減っていない。企業にもお願いしないといけないが、住居手当より同居手当を出してもらえば、高齢化の問題は100%とはいかないが何割か解決できるのではと考えている。2世代、3世代と住んでもらえるといい。

学童はどこでも老朽化、手狭、安全性など問題になっている。優先順位付けて対応して

いる状況。

学校の校舎で学童をやれないかと考えている。教育委員会とも話さないといけないが、個人的な考えとしては、今のシステムの中で場所だけ使えないかと。ただし、11月20日に一中でガスもれ事故があった。学校は外部からの侵入など安全性の問題を考える。これがネックとなって前に進めないが、学校を使うのは1つのやり方、良い方法ではないかと思う。クリアできればそれぞれの地域で市としてしっかり取り組む。

市内に5カ所の子育て支援センターがある。加子母は地区外からのお嫁さんが多い、そうした方が中心となって「かしも通信」で情報発信もしてもらっている。域学連携の取り組みもある。

・定住推進部長

域学連携は大学と地域をつなぐ取り組み。1つは中京学院大学、市内の中学校の部活指導や祭り参加など、もう1つは全国の大学から学生が来るもの。加子母の木匠塾は以前からやっているが、今年は総務省のモデル事業で全国4カ所の1つとして取り組んだ。今後は市内のいろんな地域で取り組んでいきたいと検討している。

・〇〇さん

「花てまり」は公民館講座から始まった。つるし雛の発祥の地でもなんでもないが、受講者17人から現在は60人に、昼夜分けて講座を開催している。最初は楽しみで始めたこと、何かいいことにつながらないかと考えた。阿木は少子高齢化でお店もなく元気もない。地域の抱える問題は深刻だが、特産品を作り、地域の元気なお年寄りを交えて元気を発信したいと考えた。つるし雛はとにかくほかの地域より早く発表したいと思い、17人で、中の島公園で17連を阿木のひな祭りに併せて展示したのが始まり。4年目で今年の2月には120連展示した。「おもてなし」として皆さんに阿木に来ていただきたい。今も作り続けているので来年はもっと増えるし、飽きないように少し違うこともやっていく。「そうだ阿木へ行こう」をスローガンに、JRは通ってないが明知鉄道を利用して来てください。

施設は展示用になっていないので、コミセン新築の際は、一部屋でもみんなの手作り品を置けるように常設展示の部屋にしてもらえないか。

・市長

今年のひな祭りは7,000人の来場者があった。進入路が狭いが、開催の工夫でなんとかならないかと思う。昨日のシクラメンそば祭りもたくさんの人に来てもらった。

それぞれの分野でそれぞれの地域の住む人の手助けになる活動の話を聞かせてもらっている。行政としてはどういった支援をすることで、これが広まっていくのか考えなくてはいけない。地域のそれぞれの特長に磨きをかけていただいて、まちづくりにつながるといい。住んでよかった、住んでみたいと思ってもらえるまちづくりにしたい。磨きをかけてお手伝いをしていきたい。

・〇〇さん

皆さんの活動がうらやましい。特に子どもは未来に向かって成長していくもの。普段民生委員として接する独居の老人など、年齢を重ねた方と接するのは難しい。世帯の安否確

認を兼ねて訪問している。女性の方はしゃべったりできるが、男性の方は地域に入るのが難しく、来なくていいとも言われるが、ハガキ1枚でも嬉しかったと言われるのを励みにしている。毎月学習会を開催したり、男性の方が地域に入れるようにマージャンゲームの講習会を開催したりしている。ほかに年1回民生委員で朴葉寿司、もう1回は食育改善グループと共同で弁当を配っている。4時間も前から待って見える方もある。

子どもの発達、集団に入るのが難しい子、得意なことはいいがそれ以外は大変といった子、自閉症の子や、支援の必要なクラスにいる子のお母さんなど、月1回集まって活動しているグループがある。親御さんは普通クラスのなかで孤立しがち。グループに入ることで見守ったり、見守られたりと、気持ちも楽になったりする。

・〇〇さん

地域の取り組み、まちづくりは、住民のコミュニケーションが大事。合併後、意識が拡散して一番小さいコミュニティが希薄になっていく。そのなかで自分たちの町内会では夏祭りなどで交流している。中間の年齢層の空洞化もあるが、婦人会もない、葬式も業者まかせとなって顔を合わせる機会もなくなり、道行く子どもに声をかけたら通報されてしまうのではという危機感があって、努力している。

支援の必要な子どもさんを支援するグループが2つあるが、それも福岡に根付いているのは、知らないうちにサポートできているからではないかと思う。母子家庭や生活保護家庭も住みやすくなっていると考えている。

産業祭では各小学校の出し物もある。食育もやっている。活動団体はないが、地域で取り組んでいることがつながっていると思う。

・〇〇さん

P T Aの役員のなり手がなくて困っている。規約の改正もして役員を決めたが、年代が若くなると無関心。役員が固定されてしまう。自分のときも夜に本部役員が4人スーツ姿で訪れ、「お願いします」と頼まれた。

・市長

総務省の試算では30年後2割のコミュニティが消えるという。

地域づくり、道州制などといわれているが、それで歯止めがかかるかわからない。合併したからコミュニティが元気なくしたというだけでもない。

現状としての高齢者支援のための問題点と、先々の対応策も一緒に考えていかなければならない。先ほど一緒に住んで解決できる面もあると話したが、皆さんの頑張りをお願いしなければならないのが現状。

施設入所も1つの手段。ほったらかしとか、しっかりケアされているとかは周囲の人の見方。立派な施設に入っている家にも帰りたいと涙される方もある。

民生委員、地域の皆さんにしっかり支援していただきたい。

P T Aの話、昨日市内の12中学校、19小学校のP T A連合会の大会があったが、子育ての問題は話された。役員の話はなかったが、まったく身勝手な無関心と見守っている無関心など無関心にもいろいろあるのでは。巻き込めるように地域の皆さんの関わりをしっかり作っていくことで解決していく。地域の交流の場。人を知らないとお話もできない。共通の話題、普段の井戸端会議のような話、普通の会話ができる地域づくりを目指していきたい。プライベートを大切にす時代。それは大切にしながら、互いに協力するコ

コミュニケーションを大切にしたい。行政としてもコミュニケーションづくり取り組んでいきたい。

・〇〇さん

平成 11 年に自分たちが年老いたら行きたいところを作ろうと立ち上げた。平成 12 年に宅老所を作った。近隣にはない宅老所への補助いただいている。NPO 法人なので利用料と会員の会費と寄付金のみ。市の補助金は大変ありがたい。

高齢者、若い方もうつが多い、子どもも発達支援が必要な子が多い状況。宅老所はみんなおしゃべりして楽しんでいる。同居手当てでもいいが、2～3人で住んでいても会話ないこともある。

資金的に苦しいが、地域の 60～70 代のおばさんパワー、ボランティアで調理もやってもらっている。そういう力を借りながらやっている。いずれ自分も入る。話し相手になってもらうボランティアも高齢者。自分も役に立っていると感じてもらえる。地域に支えられてやっている。お金がないから手作りしているがボランティアを頑張っている世代は高齢者。

培ってきた宅老所の精神を引き継ぎたいので、介護保険制度の施設に入らずにやってきたが、今度介護保険事業に拡大を検討している。介護予防して、次は宅老所で、その次は宅老所で慣れ親しんだ者がやっている介護事業へとしたい。お金がないので地域の方にカンパ、寄付金集めながら進めている。地域で支えていきたい。

・〇〇さん

女防で空き缶コンロに力入れている。東日本大震災の教訓から、空き缶 3 つとお米と水があればできる。子どもたちに教えたい。神坂地区は高齢者世帯、独居世帯が多い。最近も火事があったが、防火クラブの活動にいつそう取り組んでいきたい。

・市長

母が 85 歳、元気、雑貨店を営んでいるが、そこへ近所の方が来てくれて、コミュニケーションの場となっていた。数年前から介助が必要だが、自分自身が母親と話す時間がない。かみさん任せ。口で言うほど簡単でないことは承知している。

施設に集まってくる方が大勢いる。大切な施設。方法はこれしかないということはない。福祉、介護は、その人にあった介護していくこと、一人の先輩への対応の仕方、さまざまな方法があっていい。福祉、予防医療、介護があって、看取りの部分で最後は医療。

介護などは地域でもこのような場所が出来てきている。看板あげなくてもそのような場所がある。生きがい、楽しみを見つけてもらえればと思う。

神坂の女性防火クラブについては、先週も馬籠で火災があり国の登録文化財 130 年の家が燃えてしまったが、初期対応でどうにかなるものではなかった。地域ではふだんから初期消火活動に尽力していただいているので感謝している。

市内には 85 の安全安心に関わる団体がある。地域の団体 65、企業も合わせて 85 団体。地域の安全は地域で守ると取り組んでいただいている。防火クラブも大変重要な活動。

・企画部長

市の人口減少が進んでいる状況。平成 17 年国勢調査では 84000 人の人口が平成 22 年の国勢調査では 81000 人を切った。3000 人、年 600 人減っており、今も

その状況は続いている。特に周辺地域で激しい。地域コミュニティの衰退を感じるのそれが原因かなと思う。これに加えて少子高齢化がとくに小中学生の人口は年1%くらい減っている。高齢者の人口は平成32年くらいまでは増えていく。社会保障のあり方は見直されていくべき。行政の支援の仕方も変わっていく。皆さん大変な中で活動してみえるが、これからもお願いしたい。行政も必要な支援をしていきたい。

• ○○さん

蛭川の農民センターが今使えない、電気も切ってしまったと聞いた。今までよく利用していたし、子どもも何かと練習などに使っていた。いい公民館を改修してもらったが、習い事に使おうと思うと階段昇らないといけないので大変。農民センターは必要、使えないのはとても残念。直していただきたい。

• 市長

合併して9年、それぞれの地域の施設を合わせると建物だけで1,650棟ある。ほかに土地や借地も多くある。維持するばかりで新しいものが作れない。1,650棟を何とか整理しようということで、マスタープランを作って説明会を開催した。年間維持管理費が31億あるが、これを6億円ほど減らしたい。新しいものを作ってその維持管理費を差し引いて6億減なので10億くらい減らさないと無理。それぞれの地域の中には慣れ親しんだ施設あると思うが、(マスタープランに)地域の方の思いを織り込んでどこまでやれるかを検討していく。

• ○○さん

馬籠が越県合併して10年近くなる。学校だけははじめに神坂へ一本化して一緒になれて良かった。学校の後の肉付け、いろいろと一本化していかなければならないが進まない。住民の意向に沿ってやっていきたいと話されてきたが、住民の方ももう一緒にならんとやっていけんという話が出てきている。上の人も一本化に向けてもっと引っ張ってほしい。昭和33年の合併後は神坂との交流はなかった。合併後は神坂の人とも話す機会があり、お互いに悲しい思いをしたと、もう何十年もたって話をできた。皆さんの気持ちが一緒にと風に向いてきているので、お願いしたい。

• 市長

平成の神坂村会議で、今、馬籠、神坂と一緒に活動している局面になってきた。昭和33年の合併で二つに分かれたなかで、いろんな思いがあったのではと、デリケートに対応してきたもの。ひとつになってやっていくという思いに行政も対応していきたい。

まちづくりでは観光という面で宿場町とよく言われるが、中津川、落合、馬籠に神坂を入れて考えていきたい。この辺りを広い文化として捉えて進めさせていただきたい。

• ○○さん

防災士として活動している立場から、災害に強いまちづくり条例ができたが、できた後の動きが見られない。会議が開催されていない。ライフラインに関わる企業も会議には参加して条例づくりをしたはず。9月1日の防災訓練のときだけでなく災害に備えてつながりを作っておく必要があるはず。

また、そで看板が市内には多くあるので、地震の際に落下したら危険。全廃できると危険なものなくなる。商店などが困ると思うが、それを逆手にとってPRすることもできる。

・市長

市内での災害は地震による火災、豪雨災害などが想定されるが、日常生活が円滑にできることが重要になる。防災士の活動は最前線で頑張らせていただいている。3つの防災士の会があり、市の担当部署では会議をと呼びかけているが、連携に苦慮している状況。目標は一緒なので調整していきたい。

看板についてはそのとおりだと思う、市街地は老朽化して看板が頭に落ちるのが怖い。市の建物も外壁のタイルが剥がれ落ちることもある。企業、商店にお願いしていくことになるが、組織ごとの会議でも呼びかけていきたい。

・〇〇さん

市民病院の里帰り出産の制限はなんとかならないのか、瑞浪も中津川からはもう受け入れられないと聞いていると聞いた。安心して出産できるまちを目指してほしい。

・市長

ほんとうに頭の痛い話。中日新聞で出産できる病院の記事があった。市民病院、林メディカルクリニック、恵那はなし、瑞浪の個人病院、土岐市に二つ、と多治見という状況。生命に関わる一番大切なところ。名大に医師の派遣をお願いしているが、昔の医局人事と変わってきた。若い医師も「NO」といえば通る。産むときのリスク、母体や子どもの命に関わることなので、総合病院で4、5人の医師でローテーション組んで安心した状況しか行きたくない。また、民間でもそういった総合病院が近くにないと開院したくないといえます。

名大の考えは多治見があるからいいというが、恵那市と岐阜県、中津川市と木曾南部の自治体でお願いにあって、市民病院を東濃東部の総合病院として位置づけてもらった。医師本人の意思となるので、現状は大変厳しいが取り組みを続けていく。

看護師も奪い合いで、さらに病院運営も厳しくなる。恵那市が平成28年に新病院を作る。その前に一緒にひとつの病院をやろうと話したが、結果的にこういった形になった。恵那市も同じように状況厳しいと思う。

市民の生命に関わるもの、出産は人生の出発点、市としても何としても守っていくつもり。

総括（市長あいさつ）

それぞれの方で個々の生き方があり、それを尊重したい。そのなかで今の中津川市として市民サービスがどうなるか、施設も整理していかないと新しいものも作れない。市民病院も古くなってきた。ヘリポートも必要。今年にはドクターカー事業を始めた。9月から2名の麻酔科の医師に来てもらった、手術のために、医療の現場で麻酔科医師が常勤となることは大きな効果がある。今は麻酔科医師として病院スタッフとの連携をつくっているところ。新年度からはドクターカーが活動していく。

市政の中ではリニア、産業振興、安全安心のまちづくりが主なタイトルとしてあがるが、その中に今日いただいた皆さんの意見が入っており、子育て、介護、医療、福祉は継続し

て取り組むべきこと。皆さんのひとつひとつの意見を、今後の市政に反映していきたい。